

8-4-5 公益活動WG

1. 設置目的と組織

(1) 公益活動 WG の設置目的

本 WG は、建設コンサルタント会員全般の技術力向上と公益活動を目的として、以下の方策に取り組んでいる。

- a) 本省・国総研・土研と建コン協との技術的連携・協議事項に関する窓口機能
- b) コンサルタント相互の技術支援制度の創設
- c) 発注者からの技術相談窓口の設置
- d) 国総研・土研との分野別実務者レベルの意見交換会の開催
- e) 本部・支部活動成果（技術資料）の共有ならびに発注者への配布
- f) その他 会員相互及び公益に関する活動

(2) 組織

統括技術委員会副委員長代表 4 名から構成される組織となった。活動が道路および道路構造に関する技術的事項に限定されているが、建コン協を代表する道路協会橋梁委員会委員らと協働して活動を行っている。

2. 活動記録

本 WG は、本省国道・技術課、技術調査課、国総研・土研の道路・橋梁担当者及び研究者と建コン協との窓口としての活動が主である。委員自ら実施することの他に、改定道路橋示方書連絡 WG、道路橋技術相談窓口対応 WG、道路構造物専門委員会と連携して活動している。

3. 活動実績報告

(1) 共同研究の実施

a) 既設道路構造物群の維持管理計画の策定・更新手法に関する共同研究

本共同研究は、令和 6 年度終了予定であったが、2 年間の延長となった。WG は、①法定点検解釈基準と点検記録作成要領記入例検討、②LCC 算定要領、③道路リスクアセスメント要領の 3 つの WG から構成される。

本研究は、国総研の他、京都大学、大阪大学、京都府、茨城県との共同の下で実施されている。

これらの検討に加えて、今年度は「新たに保全事業のあり方」に関する検討が加わった。橋梁点

検から補修設計までの一連の流れを整理した上で、より専門的にかつ細分化された業務を確立させることを目指す検討である。これは建コン協全体の取組みとしていきたい旨が常任理事会にて紹介された。

b) 道路橋の立体挙動を考慮した設計法に関する共同研究

国総研・土研・橋建・PC 建協・建コン協・学識経験者等が参加する共同研究である。

- ① 立体挙動を考慮した箱桁橋（鋼・コンクリート複合構造含む）設計法の検討
- ② 立体挙動を考慮した横構・対傾構等の部材を省略した上部構造の設計法の検討
- ③ 立体挙動を考慮した非合成・合成桁構造の設計法の検討。

(2) 道路橋示方書改定作業

道路協会橋梁委員会傘下の WG に建コン委員を派遣するとともに、改定作業に携わった。

(3) 設計計算例・設計の手引き作成

道示改定に対応する設計計算例・設計の手引き作成のための体制を構築し作成にあたった。これらの書籍は、建コン協に加え、橋建・PC 建協・日建連とともに作成され、設計の手引きは、令和 8 年 5 月末完成を目指して活動中である。また、設計計算例は、道路協会からの発刊は見送り、内容を精査して業界団体から発刊する予定である。（発刊時期は未定）

(4) 設計計算試算の実施

R7 道路橋示方書に記載されている要求性能を設計計算において、どのように説明するか（立証するか）について会員に提供する資料として以下の 3 つの試算を実施した。

- ① 鋼床板箱桁橋（1BOX）を対象とした部材間の温度差影響の試算
- ② コンクリート箱桁隔壁の試算
- ③ 道路橋の耐風設計に関する資料（鋼少数 I 桁橋の固有振動解析の計算例）

4. 次年度の活動について

令和 7 年度と同様に国総研・国交省との窓口機能を果たすとともに、令和 7 年度活動を継続する。

（公益活動WG WG長 鈴木 泰之）